

5. その他の分野：教育・研究分野への女性の参画

(1) 教育・研究分野への女性の参画の実態

ノルウェーでは現在、高等教育を目指す男女の数はほぼ同数である。平等・差別オンブツドの 2008 年度版年次報告書によると、ノルウェー女性の 63%が大学を卒業している。一方、履修科目については従来と変わらず、女性は教育や介護・保育サービスを、男性は科学技術を選ぶ傾向がある。

ノルウェーでは、教職は女性の職業とみなされており、同国の全教職者における女性比率も、52.2% (2007 年) と高い割合を占めている (前年 52.3%)。教育レベル別では、中等教育、高等教育共に約 5 割であり、特別教育に携わる女性の割合は 85.7%と高い。

図表 3-24 教職者における女性比率 (2007 年)

教育レベル	女性比率 (%)	女性教職者数 (人)	教職者総数 (人)
中等教育 (Secondary)	50.0	9,000	18,000
高等教育 (College, university and higher education)	42.9	9,000	21,000
特別教育 (Special)	85.7	6,000	7,000
計	52.2	24,000	46,000

出典：Statistic Norway "Employed persons, by sex and occupation(4th digit in the code) (LFS). Annual average 2006 and 2007"

http://www.ssb.no/yrkeaku_en/tab-2008-02-18-03-en.html

ノルウェーの教職者における女性比率は高いものの、女性の大学教授に占める割合は低く、17%に留まっている。

図表 3-25 高等教育機関教員の職位別女性比率の推移

職位	2003年 (%)	2004年 (%)	2005年 (%)
教授	16	16	17
教授 2 種	9	11	13
准教授・上級講師	29	31	32
助教授・学部講師	51	54	54
博士課程修了	49	45	43
研究員	44	46	47
博士課程未了	39	39	40

出典：Norwegian Social Science Data Services（平等・差別オンブッドへのヒアリング調査より）

一方、現在研究者の女性比率は約 3 割であり、わずかながら増加傾向にある。

図表 3-26 女性研究者*比率の推移

年	1997	1999	2001	2003	2005
女性比率 (%)	26	28	28	29	32

※「研究者（Researchers）とは、新しい知識、製品、プロセス、方法、システムの概念の構想或いは創出、及びそれらに関わるプロジェクトの管理に取り組む専門家」。

出典：Eurostat "Share of women researchers, by sectors of performance, Head count (% of total researchers)"

http://epp.eurostat.ec.europa.eu/portal/page?_pageid=1996,39140985&_dad=portal&_schema=PORTAL&screen=detailref&language=en&product=EU_TB_science_technology_innovation&root=EU_TB_science_technology_innovation/t_science/t_research/tsc0000

5

(2) 教育・研究分野への女性の参画に関する取組

ノルウェーにおける教育分野は、最も女性の進出が進んでいる分野の一つであり、全教職者における女性比率も 5 割を超えている。これは、ノルウェーでは生涯学習政策が充実しており、1990 年代に生涯学習をすべての人に実現する「学習社会」の構築を目標とする大規模な教育改革が進められたことにも起因する。

1999 年から実施された成人教育改革では、被雇用者に 3 年以内の教育休暇を取る権利を認めると共に、奨学金制度も成人が利用しやすいように改正された。また職場や地域、家庭における多様な学びや仕事、余暇活動の中で得られた実用的能力の認定を受けることにより、職業資格をはじめ、高校や大学への入学資格を認められる制度が導入された。こうした制度の利用者の大半はキャリアアップを目指す女性である⁸⁸という。

これらの取組は、ノルウェーの女性に学ぶ権利と場、適切な支援を提供することで、教育・研究分野への女性の参画を促す一助となっている。

(3) 今後の課題

ノルウェーは世界に先駆けて男女共同参画が社会に広く根付いた国であり、教育・研究分野でも大学卒業者に占める女性の割合が 6 割を超えるなど、女性の教育水準は上がってきている。また教職という職業自体は、ノルウェーでは女性の職業と見なされており、同職に就く女性は多い。

しかしながら、教授職等の高いポジションに就任している女性は極めて少なく、また研究者に関しても、未だ女性の進出が進まない分野がある。今後の課題として、女性が教育分野において高い地位に進出できるよう、教育機関側においても女性教員登用の取組を積極的に進め⁸⁹、数学、科学、技術分野等、女性研究者が不足する分野において女性が活躍できるよう、支援していくことが必要であると考えられている。

⁸⁸ 独立行政法人 国立女性教育会館「女性の生涯学習とエンパワーメント」より。

⁸⁹ 平等・差別オンブッドへのヒアリング調査より。

参考文献

- 労働政策研究・研修機構『2008 データブック国際労働比較』2008
文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課『平成 20 年版 科学技術白書』2008
厚生労働省『今後の仕事と家庭の両立支援に関する研究会報告書』2008
厚生統計協会『2008 年国民衛生の動向』2008
週刊東洋経済「特集／「北欧」はここまでやる」2008.1.12
内閣府男女共同参画局推進課『平成 19 年版男女共同参画白書』2007
日本婦人団体連合会『女性白書 2007』2007
独立行政法人 国立女性教育会館『女性の生涯学習とエンパワーメント』2001～2004
日本労働研究機構『男性職場への女性労働者の進出に関する研究』2003
三井マリ子『ママは大臣 パパ育児』明石書店 1995

Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women, United Nations. (2007) *Seventh periodic report of States parties, Norway*.

<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N07/286/16/PDF/N0728616.pdf?OpenElement>

United Nations Development Programme. (2007) *Human Development Report 2007/2008*, http://hdr.undp.org/en/media/HDR_20072008_EN_Complete.pdf

The Equality and Anti-Discrimination Ombud - the official site.

<http://www.ldo.no/en-gb/>

Norway - the official site in Japan. <http://www.norway.or.jp/>

Gender in Norway - Information & Resources on Gender Equality & Gender Research in Norway. <http://www.gender.no/>